

НАЧАТЬСЯ / НАЧИНАТЬСЯ と結合する名詞主語

～*Чай начался как лекарство をめぐらる問題～

金子 百合子

0. 動機

筆者は数年前に米重文樹教授の「現代ロシア語学演習」で岡倉天心の『茶の本』（原文英語）のロシア語訳を検討するという機会を持った。問題の文は次のものである：

Tea began as a medicine and grew into a beverage

この文のロシア語訳のバリエーションとして、少なくとも、次のようなものを挙げるができる。

(i) Чай сперва был лекарством. Потом – напитком.

(ii) Чай сперва был лекарством, со временем стал напитком.

(iii) Чай первоначально употреблялся как лекарство, со временем стал напитком.

これらのロシア語表現の構文的差異や文体的相違などはさておき、なぜ次のように一

*Чай начался лекарством / как лекарство¹

—と言えないのか、この点が筆者には疑問であった。本稿はその疑問を動機として出発する。第一節で開始位相の一般的な概念構造について検討し、第二節で開始意味を表す語の類義語列について簡単に触れる。第三節以降では、ロシア語の開始位相動詞 *начаться* / *начинаться* と結合する名詞主語の問題と、当該動詞の統語的結合パターンの問題の二点を中心に検討し、なぜ問題の文が言えないのかを明らかにする。第三節以降が本稿の主要なテーマである。

1. 開始位相の概念構造

ひとことに動的事象の「開始」と言っても、それが意味するところは様ではない。開始は本来、「時間軸上で何かが始まる」ことであり、通常、問題となる事象は始まる以前には存在せず、ある基準点を境に存在を始める。ある事象にまつわる「非存在—基準点—存在」という概念は、「開始」だけではなく、その他類似の意味「発生」「生起」「勃発」等の意味構造においても共有されるものであり、一連の類義語列を形成する。開始とこれ

¹ Чай начал использоваться как лекарство のように、*начать* が補助動詞として不完了体動詞不定形に結合する場合は可能であるが、本稿ではこのような形式は扱わない。

らの意味との区別は次節で触れるとして、いま、「非存在—基準点—存在」を「時間軸上で何かが始まる」という形式に統一して話を進めるとすれば、この形式は「事象（何か）」と「開始（はじまる）」という二つの意味的構成素から成り立ち、それが時間軸上の出来事としてあるということが言える。二つの意味的構成素の関係は、何らかの事象に、開始の位相意味が加わるという、いわば、修飾されるもの（事象）と修飾するもの（開始の位相意味）という関係にある。

開始される事象がどのような性格を持つものであるのか、という質問の答えは、開始の意味が修飾できるものはどのような事象か、という質問の答えと表裏一体であるので、まず開始という概念がどのような性格を持つものであるかを明確にしなければならない。

フラコフスキーは開始位相の論理的意味構造を *начать* + 不完了体動詞不定形の構文を用いて導き出している。彼によれば、「少女が踊り始めた(Девушка начала танцевать)」という開始の事態は、「少女が踊っているという状況が存在し始めた(начала иметь место ситуация девушка танцует)」ということであり、したがって、動的事象の開始は「行為主体が…している状況が始まる」という論理形式に求められるとする[Храковский 2001:154]。*Начаться* / *начинаться* の自動詞文と *начать* / *начинать* を用いた他動詞文の違いは、事象の開始をもたらす動作主を明示する必要の有無にあるのであるから、動作主を除いた形である「なんらかの状況が始まる」は開始位相の論理形式という点で両者に共通である。そこでの「状況」は、*начать* / *начинать* の自動詞文であっても、その意味構造として独立した文を成立させるような陳述形式を持ち得る事態が埋め込まれていると考えられる。たとえば、*дождь начался* は、*начала иметь место ситуация дождь идет* と理解できるように。すなわち、*начаться* の自動詞文においても、主語となる名詞は陳述要素を持っており、したがって、*N началось* には *N* に含まれる陳述意味要素と開始との二つの陳述部分を本来持つことになる。ここで開始される事象がどのような性格を持つものであるのか、という質問に対する答えとして、陳述要素を持つ名詞（陳述名詞）であるということが出来る。

位相動詞の自動詞文と他動詞文は、意味的には、位相意味がある特定の状況を修飾するという点、フラコフスキーの言葉を借りれば、「意味的には結合価が1である」[Храковский 2001:163]という点で共通し、統語的には、前者が陳述名詞（主語）を取る結合価1であり、後者は動作主名詞（主語）と陳述名詞（直接目的語）あるいは不完了体動詞不定形を必要とする結合価2を有する構造をなすという点で異なる。

2. 狭義の開始とその他の意味

上記したように、「開始」とその他類似の意味「発生」「生起」「勃発」等は「非存在—基準点—存在」という共通の意味基盤を持ち、一連の類義語列を形成する。その構成素た

る語は、場合によっては、同じ事実の言い換え表現として使用することが可能であり（戦争が始まる／起こる／勃発する）、別の場合には、言い換えができない（会議が始まる／*起こる、事件が起こる／*始まる）[森田 1989:945]。ロシア語においても同様の現象が見られる：

- (1) Инцидент произошел / начался / возник
- (2) Событие произошло / началось / *возникло
- (3) Теракт произошел / возник / *начался。

しかし、日露両言語において意味的に対応すると考えられる名詞および位相動詞の結合性は各言語によって異なる。たとえば「戦争」が日本語では「始まる」「起こる」と結合するのに対し、ロシア語の война と結合する動詞は началась および произошла であり、*возникла, *появилась は許容されない。「火事」は「起こる」のであって、「火事が*始まる」とは言えないが, пожар は начался, произошел, возник, появился を許容する。個別言語に存在する類義語どうしの言い換えの可能性・不可能性は、当該の言語における各々の語彙の意味範囲や語彙の結合力が異なることから生じる。意味的に共通している各言語の類義語列を異なる言語間で対照することも大変興味深く、また母国語の干渉を防ぐ意味で外国語教育に極めて有効であると思うが、本稿では触れない。

ロシア語の開始の類義語列には次のような動詞が含まれる：*появиться, возникнуть, начаться, наступить, настать, стать* [Хализева 1976, Бабенко 1999]。ハリゼヴァ[1976]は、ロシア語学習者が間違いやすい、近似の意味をもつそれら一連開始位相動詞の使用域の差違を詳細に検討している。

「開始」をその他類義の意味から区別する要素は、まず、存在し始めた後の継続が意味概念に内包されているかどうか、という点に求められる。「生起」「発生」などは、何かが現れ起こった瞬間に焦点が当たるのみで、事象のその後の継続、という点には無関心である。逆に、「開始」の場合は、開始後の継続するプロセスに焦点が当たるため、継続プロセスを含意することが必須である事象においては、「発生」「生起」は用いられないと考えられる(*Дождь возник. *Конференция возникла / появилась)。

そのように仮定すれば、開始位相の概念的構造は、「事象」と「開始」と「継続」という三つのアスペクトから構成されると言うことができる。そして、さきに述べたように、開始位相の論理構造が開始意味をあらわす陳述動詞と事象を表す陳述名詞からなるのであれば、「継続している」という陳述は陳述名詞の中に見いだされることになる。しばしば言われるように、動詞 *начаться / начинаться* によって表される開始意味が継続プロセスを含意するのではなく、開始される事象に継続プロセスが含意されているかということが重要であり、言い換えれば、開始意味と何らかの事象との結合性は、開始意味と結びつく事象を表す語における意味内容の問題となる。

3. なにがはじまるのか? ЧТО НАЧИНАЕТСЯ?

『ロシア語動詞辞典』によれば、動詞 *начаться / начинаться* が意味するのは「発生して、実行・存在・遂行し始めること（何らかの出来事・動作・経過・状態について）」である [Бабенко1999:463]。ハリゼヴァは、当該動詞は運動、動作、プロセスなど、その存在形態が時間内においてある程度の持続性を持っているものに対して用いられるとする [Хализева 1976:76-77]。これらのことから *начаться / начинаться* が用いられる文は、生起して継続するという、「開始点」と「継続プロセス」の二つを意味特徴として持つと考えてもいいだろう。そして当該の位相動詞が開始点を表すのなら、それと結びつく主語名詞は継続プロセスの意味特徴を持ち合わせていなければならない。

ハリゼヴァでは[1976], *начаться / начинаться* との結合を許容する主語名詞および許容しない主語名詞の語彙グループは次のようにまとめられる。

1) 結合するもの:

движение, рост, развитие, спуск, изучение, направление, течение, исследование, доклад, разговор; лекция, урок, опыт, история, процесс, экзамен, дождь, занятие

2) 結合しないもの:

(a) 出来合いのもの:

*государство, *культура, *искусство, *наука, *промышленность, *математика, *литература

(b) 多様な状態や感情を表す名詞:

*желание, *надежда, *сомнение (сомнения)¹, чувство

まず、*начаться / начинаться* は動詞由来の派生名詞と自由に結合する。派生名詞でなくとも、継続する事態を表すと考えられる名詞とは自由に結合する。結合しないものの一つとして、「出来合いのもの」があるが、ハリゼヴァによると、これらは語彙によって意味される事象がプロセスとしてではなく、何らかのプロセスの完了した結果出来上がったものとして理解されているため結合しない、ということになる [Хализева 1976:76]。

状態・感情を表す名詞のほぼ全ては *возникнуть, появиться* と最も自然に結合するのであるが、中には *начаться / начинаться* との結合を許容するものも多い (любовь, ненависть, интерес, увлечение, волнение, возбуждение, тоска, скука и др.)。状態名詞 *желание, надежда* は *начаться* との結合を許容しないが、*он начал надеяться на что-л. (желать чего-л.), он*

¹ ハリゼヴァ[1976:76]は、単数形では許容されないが複数形で結合を許容するものとして *начались сомнения* (*началось сомнение)を挙げているが、筆者がロシア人に聞いたところでは単複ともに許容されるという回答を得た: У меня началось сомнение / начались сомнения。しかし、そのどちらの場合においても *начаться* よりは *возникнуть* を用いたほうが自然である。

перестал надеяться на что-л. (желать чего-л.)...と言えるので、派生元の状態動詞はプロセス性を有する。どのような状態名詞が結合し、どのような状態名詞が結合を許容しないのか、という線引きは困難である。このような事実から、ハリゼヴァは名詞が動作、物質、心理的状态のいずれを表すかに関係なく、「時間内における進展、変化、展開」の意味特徴を備えていることが *начаться / начинаться* と結合するための必要条件であると結論付ける [Хализева1976:76]。

しかし、ハリゼヴァが検討しているのは、状況語なしの単独で用いられた際の *начаться / начинаться* と主語名詞の結合性についてのみであり、当該動詞が状況語を伴った文型の中で用いられる場合には、ハリゼヴァによって結合が許容されないとされた諸々の名詞も結合を許容することが多い（次節で詳しくとりあげる）。

4. НАЧАТЬСЯ / НАЧИНАТЬСЯ の統語的結合パターンと開始イメージ拡張

前節で見たように、動詞 *начаться / начинаться* と単独で結合する主語名詞の種類はかなり限定される。しかし、

(4) *Улица началась / начинается

(4') Улица начинается от площади

(4')のように、状況語を伴えば *начаться / начинаться* と結合可能な名詞は多い。また、挙げた例で言えば、ここで用いられている *начинаться* は時間的な「開始」を表している訳ではなく、問題の空間がどこを起点として広がっているか、ということを表す。*Начинаться / начаться* 単独で結合を許容しない主語名詞は、すなわち、時間軸上での開始を表すことができないものを意味すると考えることができる。その際、語の本質的な意味から周辺的な意味へと意味範囲が拡張することは、人間が無限の外部世界の有り様を把握するために、有限の言語表現を用いなければならないということと無関係ではない。そしてこれは人間の認知能力および認知プロセスの仕組みによって可能となる。認知モデルには少なくとも次のような能力が認められる：具体的なイメージを作り上げる能力、イメージを他の対象に拡張していく能力、イメージを多角的な視点から組み替える能力、対象間に類似性を認識する能力、近接関係にある対象を関連付ける能力、など[山梨 1993:234]。これらのことを念頭に、下記では開始位相動詞 *начаться / начинаться* のイメージの拡張をその統語的結合パターンから考察する。

『ロシア語語結合辞典』[1978:310]は、*начинаться* の統語的結合パターンとして、次のものを挙げている。

(A) 時間軸上における動的事象の開始：

Начинаться чем / с чего: выступлением кого-чего-л., демонстрацией чего-л.

Начинаться где: в доме, в институте, на заводе, под Москвой, там, где....

Начинаться когда: семнадцатого мая, в четверг, перед праздником, давно

Начинаться как: хорошо, удачно, плохо, вовремя, сразу, немедленно

主語: год, какой-л. период, весна, работа, занятия, уроки, экзамен, переговоры, собрание, поездка, путешествие, соревнования...

(B) 空間的広がり of 開始

Начинаться с чего: с ручья, с тропинки

Начинаться от чего: от какого-л. места, от какой-л. площади

Начинаться где: в каком-л. месте, в горах, на севере, около реки, здесь, там

主語: какая-л. территория, какая-л. страна, лес, пустыня, река, дорога, улица, маршрут, граница...

(C) 展開する本質を有するモノ of 開始

Начинаться чем: эпитафией, цитатой

Начинаться с чего: с эпитафии, с цитаты, с каких-л. слов

主語: какое-л. произведение, стихотворение, письмо, какой-л. документ, сказка...

(C)は『ロシア語語結合辞典』で補足的に挙げられているものである。「展開する本質を有するモノ of 開始」とでも名づけられる一連のグループにおいて主語に立つモノ名詞は主に言語手段によって創作される作品類である。これらの創作品を「経験」するには、読む、見るなど時間軸上に沿ったプロセスを経由しなければならない。また、起承転結という内容の一定方向性が具体的な形に現れたものであるから、その意味では時間軸の開始からの派生と考えられる。

位相意味の本質は時間軸における開始であるから、それが空間その他に適用される場合の「開始」意味はより周辺的なものとなる。それに伴い、本来の意味で用いられる際に動詞が有した言語的特徴のいくつかは失われる。時間軸上における開始の類義語(возникнуть / возникнуть, появиться / появляться など)は周辺的開始意味をもつ(B), (C)においては、類義語ではなくなる。また、上記の各結合パターンにおいて例として挙げられている主語名詞が動詞 начать / начинаться と状況語なしで用いることができるか、という点において、(A)における名詞主語のみが当該動詞だけで結合するのに対し、(B)と(C)のグループに属する名詞主語は当該動詞のみでは許容される文にならない¹。言い換えれば、(B)と(C)におい

¹ しかし、名詞が本来の意味(空間的・物質的意味)のほかにプロセスを有するような動作名詞としての解釈を許す場合は начать との結合が可能である。たとえば、空間的に用いられている場合の маршрут は начать との結合を許容しないが、маршрут начался とした場合の маршрут はそれに沿って移動する動作として解釈されるので結合が許容される。

ては、何らかの状況語を用いた統語的結合パターンを用いることが必須となる¹。

さて、上記した各々の統語的結合パターンは *начаться / начинаться* の開始意味が時空間のどの領域で現れるかということを反映している。時間軸上での開始(A)に特徴的な結合パターンは、名詞で表される出来事の開始時点である「いつ когда?」を表すものである。空間領域で現れる開始(B)においては、「切り離し」を意味する前置詞「どこから откуда?」の状況語が特徴的である。また、両者において場所を表す状況語「どこで где?」が共起可能であるが、その意味するところは異なる。(A)においては、出来事が生じた場所を意味する「どこで」であるが、(B)においては、空間的広がり of 起点を表す場所であり、その意味で「どこから откуда?」と意味的作用は類似する。プロセスを有する動的現象を主語に取る(5)と空間に位置する場所名詞を主語にとる(5')を比較すると明らかである。

(5) Строительство началось в горах 〈出来事の生じる場所〉

(5') Река начинается в горах 〈起点〉²

(A)から(C)までのすべての領域を通し、共通して現れる統語的結合パターンが N_1 началось (начинается) с N_2 (род.п.) であり、それが *начаться / начинаться* の意味範囲の拡張を支えるイメージの根本として、すべての意味領域を何らかの共通イメージでつなげていると考えられる。

語結合「前置詞 с + 名詞生格形」に空間を占めるような場所・モノを表す名詞が使われると、動詞で表される動作はその名詞で表される場所・モノの表面や上部から発進したということの意味する(упасти со стула, сбежать с горы)。「場所」は抽象化されることもあり(возвращаться с работы), また一般化されて問題の動作遂行の空間的始発点として捉えられる(получить с почты; сорвать яблоко с дерева)。動作遂行の始発点として、その遂行手段となる具体的なモノを表す名詞を取ることもある(кормить меня с ложки)。時間的な意味を持つ名詞を取ると、時間枠を切り取る基点となるある特定の時点もしくは動的現象(出来事)を示す(звонить с утра, с обеда)。抽象的な意味を表す名詞を取ると、それは問題の動作が生起する内的な起因を表すことになる(заплакать с радости) [Современный русский язык 1958:41-42]。どのような性格の名詞を取ろうが、その名詞が表す場所・事物・出来事などを基点として、何らかの動作が生起し遂行されるという点で共通する。『統語辞典』によると、начинать(ся)と結合する場合の「前置詞 с + 名詞生格形」の統語意義素は、総合的な(комплексное)動作、プロセス、現象の開始段階を表わす、とされる[Золотова 1988:99]。

動詞 *начаться / начинаться* の用いられる全ての意味領域を考慮すれば、 N_1 началось

¹ (B)と(C)では完了体の *начаться* は用いられず、不完了体の *начинаться* のみが使用される。このようにアスペクトの意味も本稿のテーマに非常に深く関わる場所であるが、今回は扱わない。

² 参照：Река начинается отсюда。

(начинается) с N₂ (род.п.)は「総合的に捉えられる事象・事物の出所部分を明示する」統語構造と言えるであろう。すなわち、この統語構造によって表される事象・事物は、全体として総合的に捉えられる事象・事物であり、尚且つ出所部分として明示される箇所を有するということである。これを個々の意味領域に当てはめるなら、総合的に捉えられるものは、時間軸においては動的事象の開始—継続—終了の一連の流れであり、言語手段によって表される作品類では起承転結の流れであり、空間領域においては問題となる場所が占められる範囲である（起点—途中—終点）。抽象的概念のレベルにおいては、総合的な事象に対して、それを成り立たせる最も基本的な構成素が全体に対する「始まり」と考えられる。抽象概念のレベルでは総合的事象の構成過程における「流れ」の途中（プロセス的な通過点、あるいは中間点）はほとんど問題にならないようである。各領域のイメージを図示すると次のようになる（図1）。

図 1

	出来事—開始時点 〈全体—出所部分〉	空間—起点 〈全体—出所部分〉	抽象概念—基本構成素 〈全体—出所部分〉
イ メ ー ジ			

動詞 *начаться / начинаться* における「全体—出所部分」というイメージが本来の時間領域から空間的・抽象的な領域へと拡張されることによって、ハリゼヴァが当該動詞との結合を許容しないとされた多くの名詞は、統語結合パターンを用いて自由に結合することになる。

(6)* *Государство началось / начинается.*

(6a) *Государство начинается с границы.*

(6b) *Государство начинается с семьи.*

(6a)は一定の空間領域を占めるもの「国家」を〈全体〉として総合的に解釈し、その空間が始まる起点「国境」を〈出所部分〉として明示する。一方、(6b)においても同様の名詞主語が用いられているが、これは明示された〈出所部分〉（「家族」）における語の性格から、時空間領域ではなく、より抽象的な領域で用いられていることがわかる。この場合の〈全体—出所部分〉の関係は、基本的構成素「家族」からなりたつ〈全体〉としての「国家」を意味することになる。下記の例も同様である。

(7) **Культура** начиналась с православия¹

(8) **Современный русский язык** начинался с А.С. Пушкина.

これらの文における名詞主語はそれが表すものの時間領域における開始時点を述べているわけではないことは明らかであり、〈全体一出所部分〉の関係は名詞で表されるところの総合的な解釈を許容する事物や抽象概念とその基本的構成素の関係に見られる。この際、使用される *начинаться* の意味は *создаваться* の意味に類似する。ところで、開始を時間軸上で表せるものも、当該の統語構造で用いることができる。しかし、次の例で見られるように、同じ主語名詞によって表されることは多少異なる。

(9) **Дружба** началась. 〈出所部分—開始時点（非明示）〉

(9a) **Дружба** начинается с улыбки. 〈出所部分—基本構成素〉

(9)では、友情という対人関係（状態）がある時点から始まったことを意味するが、(9a)では友情を成り立たせる基本的な要素は微笑みである、といった意味で、より抽象的な概念として表されている。このように見えてくると、*начаться* / *начинаться* と結合する主語名詞の意味は、主語名詞が有する意味の多角的な側面から、〈出所部分〉として表される名詞と同じ性格をもつ意味の側面が前面に押し出されたものと言える。それが主語名詞の意味範囲にもともと潜在的に存在している場合もあれば（例えば(6a), (6b)に見られる *государство* や(9), (9a)の *дружба* など）、主語に立つ名詞の意味に潜在的にさえ存在していない場合もある。後者の場合は、統語的結合パターンが主語名詞にふさわしい意味解釈を要求するということがいえる。次の例はその典型的なものであろう。

(10) **Театр** начинается с вешалки.

(10)は劇場の独特の雰囲気はハンガーで象徴されるガルデローブを入ったところから感じることができる、という意味で用いられる表現である。したがって、モノ名詞の *театр* と *вешалка* は文全体のなかで抽象概念として解釈されることになる。

(10a) **Атмосфера театра** начинается с гардероба

と言った場合も、(10)とほぼ同じような客観的事実を表すことができるのだが、(10)の文が持つ生き生きとした表現力は失われる。また、(10a)の場合、〈全体一出所部分〉とともに、もともと空間を占める場所名詞であるので、文全体が空間的な解釈に引っ張られる。(10a)がモノ名詞を用いて語義には本質的ではない解釈を生じさせるインパクトに比べると、(10)は多少解釈が限定的になると思われる。

5. 時間軸における開始と [モノ—コト] のメトニミーリンク

¹ *Началась культура とは言えない。ハリゼヴァは「動詞 *начаться* の使用域の拡大による間違い」[Хализева 1976:74]としている。

前節では、開始のイメージが本来的な時間領域から空間領域や抽象領域へと拡張することに伴い、начинатьсяの統語的結合パターンを借りて、出来事名詞以外の名詞を主語として用いることが可能であることを考察した。いわば、位相動詞 начаться / начинатьсяの開始イメージの拡張に関する問題であった。

しかし、次のような例において、モノ名詞主語は状況語なしの начаться / начинаться と結合するので、その開始意味は本来の時間領域で用いられていると思われる。

(11) Баночка началась.

(12) ?Чай начался.

(11)は、たとえば、紅茶やジャムなどの入った缶が開けられ中身に手がつけられたという状況で使用される。(12)もほぼ同様の状況であるが、紅茶が入っていた袋や缶などが開けられたというような状況を表す。両者の差異は(11)においては容器を明示して中身の使用が開始されたことを意味し、(12)では容器に入っている中身を明示して中身の使用開始を表す。容器や中身を明示して、それらと関連する動作を言外に意味するという作用は、一種のメトニミー表現（換喩的表現）と言える¹。

(11)、(12)ともコンテキストへの依存度が高く、かなりくだけた口語表現である²。(12)の表現に関して、ロシア人インフォーマントの中には言えるという人と言えないという人がいたが、他動詞 начать および被動形動詞 начатый を使った表現は全員一致で許容されると答えている(Он начал чай. Чай начатый)。これらの表現は、紅茶の入ったパックが開封されてから使い終わるまでの経過が意味に組み込まれている故に начаться との結合が可能になる。下に挙げる例も、モノに焦点を当て、それに関する動作・作用（出来事）の開始を言外に暗示する。

(13) Виза у меня началась.

(14) В этой спецшколе немецкий язык начинается со 2-го класса.

(15) В Японии существует много форм чайной церемонии, однако строго установлено

лишь несколько: ночной чай, чай с восходом солнца, вечерний чай, утренний чай, послеобеденный чай, специальный чай <...> Ночной чай начинается при луне <...>

Вечерний чай начинается около шести часов вечера³.

¹ 参照：[容器—中身]の慣用的メトニミーリンク「ドンブリをたいらげる」[山梨 1993:245]

² 興味深いことに、使用される事物を明示してそれと関連した何らかの動的プロセスを意味する換喩的表現は、начаться / начинаться で表される開始よりも、終了を表す кончиться / кончатся との結合においてより自然である：У нас кончился(кончились) чай / хлеб / конфеты. しかし、*?У нас начался (начались) хлеб / чай / конфеты. また、同様のことが他動詞についても言える：Он кончил университет. しかし、*Он начал университет.

³ 出典：〈<http://www.satayuga.org/romantic/cirimon/index.htm>〉[2003-07-10]

(13)はビザが効力を持ち始めた(=виза начала действовать), という意味で用いられ, (14)ではドイツ語の学習が始まる(=дети начинают изучать немецкий язык)ということを表す。同様に, モノ名詞の чай もメトニミーの作用を受けて *начаться / начинаться* と結合することができる。(15)における主語名詞 чай は, 与えられたコンテキストより行事(出来事)として捉えられていることがわかる。これらの表現はすべて口語的であり, またそれぞれの場合における[モノーコト]のメトニミーリンクは, 慣用度に差異が見られる。日常的で, 話者の間で共通に理解される[モノーコト]リンクは, 例えば(14)のように比較的自然的に受け入れられるものもあれば, (15)のように, 最大限にコンテキストが与えられていなければ許容されないものもある。

(16) Традиционный чай начинался с фуршета.

(17) Чай начинается с воды.

(16), (17)のように N_1 началось (начинается) с N_2 (род.п.)の文型を取ると, 第四節で見たように, N_1 と N_2 は〈全体—出所部分〉の関係を表す。同時に, 主語位置を占めるモノ名詞には, 〈出所部分〉として明示される語の性格に一致する意味解釈が要求される。(16)は「立食パーティ」という出来事が全体の出所部分としてあるので, чай も出来事として解釈されなければならない(「茶の湯の儀式」など)。(17)は N_1 も N_2 もモノ名詞であるが, この場合, 開始イメージがモノの抽象的な概念に拡張され, 〈抽象概念—基本構成素〉の関係を作ると考えるならば, 「お茶の質は水の質で決まる」(Качество чая начинается с качества воды)と理解することができる(例えば, お茶の生産地における水質の良し悪しなどが話題の場合)。一方で, モノ名詞が[モノーコト]のメトニミーの作用を受けていると考え, 「お茶の支度は水の選択から始まる」(Приготовление чая начинается с выбором воды)と解釈することも可能である。「お茶の質…」の解釈も, 状況によっては「お茶の支度…」として解釈もできる場合もあるであろうから, より具体的なコンテキストがない限り, この文の解釈は決定できない。開始イメージの拡張と主語名詞におけるメトニミー作用の線引きは困難な場合が多く, (17)のような例ではそれらが共存している場合も考えられる。

6. 統語的結合パターン“ N_1 началось / начиналось как N_2 ”について

N_1 началось как N_2 という統語的結合パターンについて考察する。この結合パターンは『ロシア語語結合辞典』[1978]における *начаться / начинаться* の結合型リストには入っていないが, 現実には見出される。

(18) Парад начался как одно из мероприятий, посвященных 40-летнему юбилею города.

(19) Словообразование начиналось как один из разделов морфологии, потом стало самостоятельной сферой в лингвистике.

(20) Бейсбол в США начался как один из видов развлечений, а в Японии – как один из видов воспитания.

(21) Древне-Римское государство началось как монархия.

(22) Их отношения начались как дружеские (отношения), а потом перешли в любовь¹.

(23) Этот известный в мире фестиваль начался как обыкновенный местный (фестиваль).

(24) Бунт начался как обычная драка².

上記の例を検討すると次のことが言える。第一に、 N_1 と N_2 は同じ意味範疇に属する名詞でなければならないということである。(18), (23), (24)において、 N_1 と N_2 はともに出て来ることを表し、(19), (20), (21)では具体的な事物・事象を、(22)では抽象的概念を表している。

第二に、 N_1 と N_2 の関係は類概念で共通し種概念で異なる関係でなければならない。類概念とは、例えば、動物・植物に共通する「生物」という概念であり、生物に対して「動物」、「植物」は生物という類概念に対して、異なる種概念を表す。その際、表現の上で二種類のタイプが見られる。まず、 N_2 で共通する類概念を明示し、 N_1 で異なる種概念を明示する。例えば、(18)では N_2 で表される「行事」の類概念に属する種概念として N_1 の「パレード」がある³。(19), (20)の例はこのタイプに相当し、(23)もそのように考えられるであろう。もう一つのタイプは、 N_1 で類概念を示し、 N_2 でその種概念を示す方法である。(21)では、「国家」が N_1 で示され、その下位分類が N_2 で示される。例文では「君主国家」であるが、これは別の種概念「封建国家」「民主国家」などと並ぶものである。(22)も同様に考えられる。(24)における N_1 の「暴動(бунт)」と N_2 の「喧嘩(драка)」の関係はどちらのタイプに属するかというと、「喧嘩(драка)」という語が広い意味範囲で用いられ、一方「暴動(бунт)」はより具体的な行為を表すことを考えると、この文は前者のタイプ(N_1 種概念— N_2 類概念)に当てはまるのではないかと思われる。あるいは言外に何らかの類概念、(24)では、例えば「反抗行為」など、が想定され、その種概念として N_1 と N_2 が述べられている可能性もある(このような考え方は(23)にも当てはまりそうである)。

また、上記挙げた二タイプは、 N_1 と N_2 の関係を事態の「発展のプロセス」として把握できるかどうか、という点からも分類できるようだ。(18), (19), (20), (23), (24)では N_2 が発展して N_1 になる、という時間軸上の一定方向性が感じられる。その際、(18), (19), (20)では雑多なものと一緒にたにされていたうちの一つでしかなかったことが N_2 で表さ

¹ Дружба を用いると、Их отношения начались с дружбы, а потом перешли в любовь.

² (24)は、То, что началось как обычная драка, превратилось в бунт とも言える。参照：What began as a minor scuffle turned into a full-scale riot [Oxford advanced learner's dictionary of current English 1995].

³ 「行事」という類概念で共通し、種概念で異なるものとしては「パレード」と並んで、「花火大会」「展覧会」などさまざまな催し物が考えられる。

れ、 N_1 という独立したもの、あるいは個性的な特徴を得るものとして分離した、という感じを受ける。(21), (22)においてはそのような解釈は成り立たない。

上記述べたことにしたがって、当該の構文を用いて非文法的となる場合を説明することができる。例えば、英語では **She began as a translator (before writing novels)**¹ と言えるが、類似する構造を用いて訳したロシア語の文(25a)は非文法的である。また、(25b)とも言えない²。

(25a) *Она началась как переводчица (а потом стала писательницей).

(25b) *Ее карьера началась как переводчица.

(25a), (25b)がロシア語において許容されないのは N_1 началось / начиналось как N_2 の文型において、 N_1 と N_2 によって表される名詞が同じ意味範疇に属さないことによると考えられる。「通訳 (者)」という職業を意味する N_2 に対して、(25a)では「彼女」という人称代名詞が N_1 を占め、(25b)では「キャリア」という抽象名詞が N_1 の位置を占めている。ちなみに、それぞれを日本語にした場合、(25a)「?彼女は通訳 (者) として始まった」と(25b)「彼女のキャリアは通訳 (者) として始まった」を比較すると、後者の方が落ち着く表現と筆者には感じられる。人主語と自動詞の開始位相動詞の結びつきに関しては、日英露語の間でその許容度に差異がありそうである。

(27) *Шоколад начался как напиток.

(28) *Чай начался как лекарство.

(27), (28)は N_1 , N_2 ともに具体的なモノ名詞であるが、両者の関係が類概念とそれに属する種概念の関係にないという理由で、正確には、そのような関係として解釈されないという理由で、許容される文とならない。つまり、(27)の例では、「飲み物」という類概念に属する種概念として、「チョコレート」が解釈されないこと、(28)では「薬」という類概念に「お茶」が含まれないことがこれらの文を非文にさせている理由と考えられる。

7. おわりに

筆者は、以前同様のテーマを扱ったとき、結論として動詞 *начаться / начинаться* は、時間・空間的広がりをもたないモノ名詞とは結合しにくい、また、ロシア語において N_1 началось / начиналось как N_2 の文型は使用されにくいのではないか、という二点を挙げた。しかし本稿における検討によって、それらの点に修正を加える必要がある。

¹ He began as a drummer [The new oxford dictionary of English 1998]

² 英語の文で意味されるところをロシア語で表すにはいくつかのバリエーションがある： Она начала свою карьеру переводчицей / как переводчица / в качестве переводчицы; Ее карьера началась с работы переводчицей / в качестве переводчицы (*с работы как переводчица)。

(1) モノ名詞が *начаться / начинаться* と結合しにくい場合は、モノ名詞で表される事物が具体的なものを指しており、当該動詞による開始意味が本来の時間領域で用いられている場合である。特に、当該動詞が状況語を伴わずに使われる場合は、時間的な開始を意味する典型的な場合であり、その際にモノ名詞による主語は動詞との結合を拒む。しかし、動詞が状況語を有し何らかの統語的結合パターンを取ると、開始の意味は本来の時間領域から出て、空間・抽象的な領域へとその意味範囲を拡張する。それはわれわれが外的世界の無限の事象を身体的・心理的感覚によって把握し、有限の言語表現を用いて情報処理する認知的操作の結果である。開始意味の拡張を複数領域にわたって共通する統語的結合パターン N_1 *началось / начинается с N_2* (род.п.) についてみれば、それは「総合的に捉えられる事象・事物の出所部分を明示する」統語構造であり、全領域にわたって N_1 と N_2 は〈全体—出所部分〉という共通イメージを持つ。そのイメージは時間領域では〈出来事—開始時点〉として、空間領域では〈空間—起点〉、抽象領域では〈抽象概念—基本構成素〉として具体化・拡張される。また、その際、 N_1 と N_2 は同じ意味範疇に属さなければならない。

しかし、時間軸上における開始意味で当該動詞が用いられた場合に、モノ名詞主語を取る場合がある。それは [モノ—コト] のメトニミーリンクにより、モノ名詞がそれにまつわる動作として拡大解釈されることで、開始の位相動詞と結合することができるからである。この場合の解釈および発話の許容度は、ある特定の状況に対する話者の共通認識あるいは設定されたコンテクストに大きく依存し、文体的にもくだけた口語として位置づけられる。

(2) ロシア語において N_1 *началось / начинается как N_2* という統語的結合のパターンは存在するが、次の条件を満たすことが必要となる。第一に、 N_1 と N_2 は同じ意味範疇に属する名詞であること、第二に、 N_1 と N_2 の関係は共通する類概念と異なる種概念の関係をなすこと、である。

したがって、**Чай начался как лекарство* が許容されないのは、 N_2 (*лекарство*)で表されるところのモノ名詞が主語にあたる N_1 (*чай*)にもモノ名詞としての解釈を要求し、 N_1 と N_2 は類概念を共通とし、種概念として異なるものでなければならないのが、両者は類概念を共有しないという理由によると考えられる。

文 献

Апресян Ю.Д. Лексическая семантика. М., 1974

Бабенко Л.Г. Толковый словарь русских глаголов: Идеографическое описание. Английские

эквиваленты. Синонимы. Антонимы. М., 1999.

Белошапкина В.А. Словосочетание // Галкина-Федорук Е.М. (ред.) Современный русский язык: Синтаксис. М., 1957.

Денисова П.Н.(ред.) Учебный словарь сочетаемости слов русского языка. М., 1978.

Золотова Г.А. Синтаксический словарь: Репертуар элементарных единиц русского синтаксиса. М., 1988.

Медникова Э.М., Апресян Ю.Д. (ред.) Новый большой англо-русский словарь. Т.1. М., 1993.

Половникова В.И. Употребление слов, мотивированных глаголом являть // Русский язык за рубежом. М., 1980. №2.

Прокопович Н.Н. и др. Именное и глагольное управление в современном русском языке. М., 1981.

Розенталь Д.Э. Управление в русском языке: Словарь – справочник. М., 1986.

Хализева В.С. Сопоставительный семантический анализ глаголов начала // Русский язык за рубежом, 1976. №4.

The new oxford dictionary of English. Oxford, 1998.

Oxford advanced learner's dictionary of current English. 5-th ed. Oxford University Press, 1995.

小西友七編『英語基本動詞辞典』普及版, 研究社, 1980年.

小西友七編『ジーニアス英和辞典』再版, 大修館, 1989年.

山梨正明「第9章認知言語学—ことばと心のプロセス—」『日本語要説』初版, ひつじ書房, 1993年.

Сочетаемость глагола *начаться/ начинаться* с существительным в позиции подлежащего

КАНЭКО Юрико

В статье рассматривается вопрос о недопустимости предложения: **Чай начался как лекарство*. Вопрос рассматривается в двух аспектах: (1) сочетаемость глагола *начаться / начинаться* с предметными существительными, и (2) возможность синтаксической конструкции N_1 *началось как* N_2 .

Наблюдаются случаи, когда глагол сочетается с предметными существительными в том числе и *чай*. Автор пришел к выводу, что сочетаемость данного глагола с предметными существительными допускается: во-первых, при расширении с помощью синтаксической конструкции семантического диапазона глагола *начаться/начинаться*, во-вторых, применением метонимии в сфере предметных существительных в позиции подлежащего.

Рассматриваются разные типы синтаксической сочетаемости глагола *начаться/начинаться*. Приведен фактический материал с конструкцией N_1 *началось как* N_2 . Анализ показал, что структура возможна, но во многих случаях предпочтение дается употреблению другой конструкции или синонимических глаголов. Кроме того, выявлена строгая избирательность в совпадении семантических разрядов существительных в позиции N_1 и N_2 . Отношения между N_1 и N_2 заключаются в отношениях родового и видового понятий названных существительными явлений или предметов.